

月日だけが流れた* 歯食いしばって生き

東日本大震災から3年となつた11日の各地や世界の動きをまとめた。

3・11ドキュメント

JR広野駅近くで行われた避難訓練で、次々と車両から飛び降りる高校生ら(11日午前10時、福島県広野町で)



午前9時40分 福島県沿岸部を走るJR常磐線の広野駅近くで、電車が地震で緊急停止した想定で避難訓練が始まる。乗客は運転士に誘導され、高さ約1・5メートルの車両ドアから線路に次々と飛び降りた。県立高校2年生の遠藤涼香さん(17)は「緊迫した訓練で、当時は思い出した」。

午後2時30分 韓国外交省で定例記者会見。趙泰永報道官は「日本国民が難局を克服していく姿は、我が国民にも深い印象を与えた。大切な隣人として、共に未来をつくっていただける環境が早く整うことを期待する」とコメント。

午後2時46分

◆岩手県陸前高田市の市民会館跡で、遺族ら10人がサイレンの音とともに手を合わせた。同館に勤務していた長男寛さん(当時24歳)を亡くした保育士村上智子さん(53)は、「代わられるなら代わってやりたかった」と声を震わせた。



撮影・本間光太郎

家族を亡くした子どものグリーフケアを始める

顔

にしお 西尾 温文さん 59

親やきょうだいを亡くした子どもの悲しみを癒やす無料のプログラムを、4月から毎月1回、東京都小金井市で始める。

「日本では大人が対象のグリーフケア(悲嘆のケア)がほとんどだが、米国には子ども向けのプログラムがある。日本のモデルを作りたい」

51歳で臨床心理士の資格を取得。30年間経営した学習塾をやめ、都内の大病院でがん患者の心のケアを始めた。患者が亡くなった後、残された子どもたちは病院と縁が切れてしまう。グリーフケアの必要性を痛感した。自身も

3月11日の震災から3年たった。全くなたない。月日だけが流れてしまった。

◆台北のホテルでの追悼式典で、日台の関係者が1分間の黙とう。頼浩敏・司法院長は「(震災時に)冷たい文字が浮かんだ。

午後5時8分 福島県いわき市の平中央公園に300本のロウソクが並べられ、夕闇に「3・11 祈」の文字が浮かんだ。

大福島県町などをに神奈川れ、今月木健太郎後まで気に当たり

新教育長「任期3年」合意 自公

自民、公明両党は11日、国会内で、教育委員会(教委)改革に関する作業部会を開き、残された焦点だった新

教育長の任期について3年とすることで合意した。自公両党が合意したこと、政府が今国会に提出する教育改革を柱とした地方教育行政法改正案は、成立する公算となった。

自公両党は、①教育長と教育委員長を統合したうえで、教委を地方教育行政の最終責任者とし、首長権限を強化する②地方自治体の首長がトップを務める協議機関(総合教育会議(仮称))の設置を法律で義務づける――ことなども合意しており、教委改革の全容が固まった。△関連記事4面▽

校門



防衛大

ケネ

「東北」ケリー、日本大震災ことを受け、生活と地域も日本の米国民と